

令和4年度 第2回苫小牧市環境審議会 会議録

日 時 : 令和4年7月8日(金) 14:00~15:30

会 場 : 市役所9階 議会大会議室

出席委員 : 16名

会 議 録 : 以下のとおり

(鈴木次長)

定刻となりましたので、ただいまより、令和4年度第2回苫小牧市環境審議会を開催いたします。

本日はお忙しい中、御出席をいただきありがとうございます。

司会を担当します、環境衛生部次長の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

本日の出席委員数は、委員数20名中16名が出席されており、半数以上となっておりますので、本会議は成立していることを、御報告いたします。

なお、本日はQ委員、R委員、S委員より、欠席との連絡をいただいております。

また、A委員におかれましては、連絡を受けてはおりませんが、後ほど到着するものと思われま

す。また、本日は環境基本計画の見直し業務の委託先である(株)ドーコン様がオブザーバーとして出席しています、よろしくお願いいたします。

それでは、審議に先立ちまして岩倉市長より、中村会長に苫小牧市第4次環境基本計画に関する諮問がございます。岩倉市長と中村会長は前にお進み願いたいと思います。

(岩倉市長)

苫小牧市環境審議会会長、中村努様。苫小牧市環境基本計画につきまして諮問をさせていただきます。ご苦勞をおかけいたしますが何卒よろしくお願いいたします。

(鈴木次長)

引き続きまして、開催にあたり岩倉市長より御挨拶申し上げます。

ありがとうございました。

岩倉市長と中村会長、お席にお戻り下さい。

開催にあたり岩倉市長よりごあいさつ申し上げます。

(岩倉市長)

皆様には日頃から当市の環境行政に対し、多大なご協力をいただいておりますことを心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

本日は第 2 回環境審議会の開催にあたり、ご多用の中、お時間をいただいておりますこと合わせて心から御礼を申し上げます。

ただいま中村会長に諮問書をお渡しさせていただきました。我々にとっても第 4 次になります環境基本計画、本来であれば中間見直し時期ですが、昨今の非常に大きな環境にかかわる変化に鑑み、後程事務方から説明があるかと思いますが、抜本的な改定も含めて皆様方から忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。ご案内の通り一昨年、2050(ニー・マル・ゴー・マル)カーボンニュートラル、菅総理のもとで宣言をされ、ゼロカーボン社会の実現を目指すという、わが国だけではなく、地球市民全体の課題である宣言が出されました。

苫小牧は、私が市長になった第 1 期目の折り返し地点、14 年ほど前に CCS、二酸化炭素海中貯留のプロジェクトの地質調査がございました。今日欠席の漁組さんのご協力をいただきながらスタートいたしました。その後、政府により実証試験地として苫小牧が選定され、2019 年には目標であった 30 万トン CO₂ 圧入という目標達成しました。地球温暖化の切り札といわれている CCS プロジェクトですが、その後、CCS から CCUS、カーボンリサイクルの方向に舵を切って促進協議会を継続しています。その矢先に 2050 カーボンニュートラル宣言がありました。これを機にこの促進協議会を CCUS ゼロカーボン推進協議会として再々スタートを切り、今日に至っているところでございます。このミッションは、次の世代、苫小牧におけるこれから誕生してくる市民のための大変重要な取り組みになります。市民が、同じ問題意識を持ちながら、地球温暖化に向けた対策、小さなことでも一つ一つ積み重ねていく姿勢がこれから問われてくるのではないかと思います。是非これから改めて作ろうとする計画に対する忌憚のないご意見をいただければと思います。とはいえ我々は市民、人の営みが一番大事でございますし、企業市民の営みも含めて、しっかりベースに踏まえながら、ゼロカーボンミッションと向き合っていかなければならないと考えています。重要な取り組みになりますが、是非皆様方に重ねてお願いですが、いろいろな角度からの忌憚のないご意見を計画に反映していきたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます、冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

(鈴木次長)

岩倉市長は他の公務のため、退席させていただきます。御了承の程、よろしくお願い申し上げます。

～市長退室～

(鈴木次長)

委員の皆様には、お手元に諮問書の写しを配布させていただきます。

～諮問書の写しを配布～

(鈴木次長)

会議に入るにあたり、本審議会の会議録につきましては、「苫小牧市市民参加条例」第 11 条により公開することになっており、ホームページ等で公開してまいりますのであらかじめ御了承願います。

なお、会議の審議内容を記録する関係上録音をいたしますので、発言をされる場合には、皆様の前

にありますマイクの赤いランプが点灯したことを確認してから、発言をお願いいたします。

これからの進行につきましては、会長が議長として会議を進めてまいりますので、中村会長よろしくお
願いいたします。

続いて、第2回審議会の資料について確認します。

～会議資料確認～

- ・資料1 計画改定の背景、目的、改定スケジュールについて
- ・資料2 計画改定に向けた情報提供について
- ・資料3 計画骨子(案)

これからの進行は、会長が議長として会議を進めてまいりますので、中村会長よろしくお
願いいたしま
す。

(中村会長)

それでは、次第により会議を進めてまいります。

事務局より計画改定に向けた作業内容について報告の後、質疑応答という形で行います。質問等が
ある方は挙手をお願いいたします。その後、環境審議会部会の設置について協議します。

本日の会議は15時30分を予定しておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

資料1計画改定の背景、目的、改定スケジュールについて事務局から報告をお願いします。

(中山主査)

環境保全課の中山と申します。

私からは、計画改定の背景、目的、改定スケジュールについて資料①に沿ってご報告させてい
た
きます。着席にて説明させていただきます。

はじめに、計画改定の背景として、環境基本計画のこれまでの流れについてでございます。

本市では、平成15年に「苫小牧市環境基本計画」、平成21年に「苫小牧市地球温暖化対策地域推
進計画」を策定しております。

平成30年にこれらの計画を総合し、「第3次環境基本計画」を策定いたしました。

その後、脱炭素社会への移行が本格的に始まっており、本市においても、令和3年に「ゼロカーボン
シティ」を宣言したところでございます。

また、今年3月には「苫小牧市再生可能エネルギー基本戦略」を策定しております。

第3次環境基本計画が令和4年度に、本来であれば中間見直し時期となりますが、これらの流れを
反映して、計画を改定することといたしました。

なお、計画期間は令和5年度(2023年度)～令和12年度(2030年度)を想定しております。

以上が、計画改定にあたっての背景となります。

次に改定の目的でございますが、今回の計画改定の目的は、大きく二つあります。

一つは、これまでの取組を踏まえ課題・対策を検討すること、二つ目は「ゼロカーボンシティ」の実現

に向けて、関連施策を重点的に取り上げた内容とすることです。

統合している苫小牧市地球温暖化対策地域推進計画の内容とともに、ゼロカーボン推進計画、気候変動適応計画としての内容を拡充したいと考えております。

ゼロカーボン推進計画、気候変動適応計画については、この後、情報提供をさせていただきます。

次に改定スケジュールでございますが、裏面の全体スケジュールをご覧ください。計画改定の進め方についてご説明いたします。

計画改定を進めるにあたって、集中的に審議する必要があるという判断によりまして、6名程度の少人数で部会を設けて議論する場として、部会を設置したいと考えております。部会設置については、苫小牧市環境審議会規則の第5条に審議会は必要があるときは部会を置くことができると規定されております。ことから、後ほどご審議いただきたいと存じます。

部会の開催につきましては、本日の本審議会ののち、3回を予定しております。

部会のスケジュール案もその下に記載していますが、1回目に、市民に分かりやすく伝える計画づくり、2回目に主体別のアクションプラン、3回目に計画素案に基づいて、基本目標ごとの施策について議論する予定でございます。

これらの議論を踏まえて、改定案の素案を作成し、11月に予定している第3回審議会で、改定案の提示・協議を行いたいと考えております。

続いて、計画改定の進捗状況についてご報告いたします。

改定にあたって計画の構成を見直した骨子素案を作成しておりますので、この後説明・協議を行います。

市民アンケート、事業者アンケートについても6月から実施しており、市民アンケートは、WEBモニター約400名と、若年層を対象とした調査を実施し回答を得ています。また、事業者アンケートについては、苫小牧市内の企業1000社を対象として実施しました。いずれも、現在の取組状況やエネルギーの使用状況を把握する内容となっております。

簡単ではございますが、私からの説明は以上となります。

(中村会長)

ただいまの説明に対し、御質問ございますか。

御質問がある方は挙手をお願いします。

よろしいでしょうか。

計画改定の背景、目的、改定スケジュールについては以上です。

資料2計画改定に向けた情報提供について事務局から説明をお願いします。

(ドーコン)

事務局、ドーコンの佐藤と申します。よろしくお願ひいたします。

審議会資料②、ゼロカーボン推進計画、気候変動対応計画、適用計画の情報を提供させていただきます。

1枚目に全体の概要計画が書いています。

苫小牧市さまからご説明がありましたとおり、第3次から第4次に変えるにあたり、再エネ戦略、温暖

化対策、地域推進計画ということでゼロカーボンの推進計画、気候変動適用計画ということで、国の動きも見ながらいろいろなものを取り込んで、市独自の環境基本計画としていくというようなものになっています。

下に枠がありますが、国としては温暖化全体の計画。後程お話しますが、緩和策と適用策がありますが、温暖化にさせないということが一つ。少しでもなってしまったときにどのような対応をしていくのかという適用策。この二つがございませう。それぞれに対応した自治体の計画もあるという位置づけになっております。

次のページは、ゼロカーボン、カーボンニュートラル。いろいろなところで出ています。

温室効果ガスの排出量は、単純にゼロにするのではなく、100%ゼロにすることはできないので、吸収量も含めてゼロにする。吸収というのは森林、CCS、CCUSも入ります。

ゼロカーボンを踏まえて二酸化炭素排出ゼロ表明、ゼロカーボンシティ宣言がありますが、日本のかなりの自治体さんが宣言しています。

3 ページでは具体的な数字を示しています。

国全体としての宣言は、2050 年には実質ゼロ。その途中段階の 2030 年度、2013 年度比で 46%減が国の目標となっております。全体で 46%減というのは非常に高い数字になってはいますが、個別で見たものが表となっております。部門別では、工場などの産業、大きな事務所、学校、公共施設。業務その他部門が家庭、運輸。それぞれが非常に大きな数字となっております。産業で約 40%、業務その他で 51%、家庭で 66%、運輸で 35%、それぞれの部門で削減目標が高いものが掲げられております。

4 ページが北海道。昨今、たてられた北海道の計画の改定版です。2030 年度で 48%減、国の目標にかなり近い削減目標を掲げております。このような目標に対して、苫小牧市さんとしてどういう対策をしていくのか、どのような目標を掲げていくのかが議論されるのではと思います。

5 ページ、6 ページについてはイメージです。

5 ページについては、家庭部門、街中における取り組み例という事で、一口にゼロカーボンといっても何ができるのかということがあります。単純にエネルギーだけを使わなければいいとか、省エネだけしていればいいというものではゼロカーボンには、なかなかならない。いろいろなものを組み合わせなければならぬということをしていただきたく、国の資料を持ってきたものです。一つ一つは割愛しますが、市街地の部門一つをとっても移動をどうするのか、家の中でのエネルギーをどうするのか、マース、交通はどうか、町全体の取り組み、それから IT、AI をどう使っていくか、多岐にわたるので関係しない分野がないくらいだと思っていただければと思います。

6 ページも同様で、こちらは農村地域についてです。再エネのほうで木質バイオマス、家畜ふん尿、風力発電といった再エネなどがございませう。そのエネルギーをどこで使うかということも難しい話で、地域循環をどうやっていくのか。民営の矢印が輪になったものがありますが、そのようなことも考えていく必要がある。このような意味でも広い話になってはいます。

7 ページ、このようなことを踏まえて今後、議論しながら計画のイメージ例として、環境基本計画の中では地球温暖化対策にかかわる施策を体系的に取りまとめていくことになると思います。どのような主体が何をやっていけばいいのかということを目標にしていく。たてかたつについては、環境省で作成したマニュアルがあります。完全に準拠する必要はありませんが、基本的には参考にしながら苫小牧市さんに合った内容を議論しながら設定していく。

右側に石狩市さんの作成例として棒グラフがあります。過去から現在に対してどのような温室効果ガ

スが出たのかを見ながら、将来的にこれくらい減らさなければならないという目標を数字でたてていくものになります。具体的な取り組みは、省エネルギー・再生可能エネルギー、気候変動適用策、この2本の柱を計画の中に盛り込んでいくことになります。

8ページ、まだ馴染みがないということで2ページ用意してきましたが、気候変動適用策。気候変動に対する取り組みについて、個人、自治体、企業の義務ではございません。一方で、極力温暖化にならないように緩和していくのは当然ですが、緩和の幅がどうなってくるかは自然環境のことで予測がつかないので、事前に備えておく。一次産業を中心に事前に避けられない気候変動の影響に対しては、影響を小さくしていくことが重要であるというマニュアルが定められています。

最後の9ページは、適用策に対する計画のイメージです。適用策ですので、数字を求めるものではございません。

気候変動の過去1から過去5までありますが、太字の4、5、気候変動の影響評価、影響に対する適用策が矢印で示しています。自然災害、農林業、健康、水環境。ニュースを見ているいろいろなところで災害が起きている。そこにどう適用していくのかを設定していく。その中で国や道で示している方針、重点的に何に取り組まなければならないのかが重要になっていきます。緩和策と同様にどういう適用が必要かということは、自治体さんごとに大きく異なるので、苫小牧市さんに合った内容を検討していく必要があります。

以上、国の状況、道の状況を踏まえてマニュアルに従い、議論しながら市の計画を立てていくことになると考えています。以上情報提供でございました。

(中村会長)

ただいまの説明に対し、御質問ございますか。御質問がある方は挙手をお願いします。

A 委員をお願いします。

(A 委員)

意見ではないが、10年くらい前に、環境省や経産省の環境政策課の人達と国の政策のたたき台を作るメンバーにいたので、その時の知見を苫小牧の貢献のために還元したいと思って列席しています。

(中村会長)

他にいらっしゃいますか？では、資料2計画改定に向けた情報提供については以上です。

資料③計画骨子案について事務局から説明をお願いします。

(ドーコン)

事務局の株式会社ドーコンの本間と申します。よろしくお願ひいたします。

A3サイズの資料をご覧ください。審議会資料③計画骨子案についてと書いてあるものが1枚目になります。

現行計画の構成と計画改定の視点についてご説明いたします。

こちらの表にありますのが、現行計画の構成がどうなっているのか大項目ごとにまとめたものになっております。

現在の大きな構成として、苫小牧市の現況、概況、計画の内容についての基本的事項、目指すべき

環境ということで目標があり、その後ろに具体的な取り組みとして分野ごとの取り組み例、最後に推進介入といった流れで構成されております。このうち今回計画の改定の中で大きく見直していきたいと考えている点についてご説明します。赤字で①と書いてある、苫小牧市の概況についてはデータの更新を行っていきたくて思っております。

年次更新ということもありますが、環境基本計画というところ、また昨今の取り巻く状況について、きちんと背景として掲載しなければならないものについて、纏めていきたいと考えております。

2 つ目の変更点・改訂点につきまして、先ほど事務局からの説明にもありましたが、計画対象期間が大きく変更いたします。令和 5 年度から令和 12 年度までの 8 年間で対象として考えております。

その下の現行計画の中では第 2 次計画の検証の項目があります。今回、第 3 次計画の取り組み状況の中間見直しで、以下の③、④について整理したいと思っております。

③については、市の取り組みの実施状況ということで、どういった施策、取り組みが行われてきたのか。④は、第 7 次基本計画、総合計画の策定を進めていますが、市民意識調査の結果の中から環境に関するものを掲載していきたいと考えております。

続いて目指すべき環境については、長期的な将来像で目指すべき環境を示しておりますので、大項目は変更せずに分野や基本目標のほうの見直しを検討してはどうかと考えてございます。

基本目標や分野の見直し案につきましては、次のページでご説明します。

まず、下のほうの説明に進みたいと思います。続いて次の項目の具体的な取り組みでは、分野ごとにどういった取り組みをするのか、といったものが整理されますが、その内容として⑦ゼロカーボンの推進施策を一番に打ち出し、拡充することを今回の改定のなかで見直していきたい。

また、そのような大きな構成を見直す事とともにその内容についてもより分かりやすい構成としたいというのが⑧になっております。現在は、現状と課題、それに紐づく基本施策が整理されていますが、それに加えて基本目標が何か、目標の達成の指標は何か、昨今注目されている SDGs のゴールとの関連性。目指す姿と取り組みが紐づくような形で整理していきたいと考えております。

ここまでの全体構成の骨子の見直し案になります。

続きまして 2 枚目の計画構成も組み換え案についてご説明させていただきます。

さきほど説明した具体的な取り組みについて、それぞれ各分野ごとにまとめていますが、その内容をどう見直したらいいのかの事務局案になります。ポイントとしては大きく 3 つございます。1 つ目はゼロカーボン関連施策を 1 番先に打ち出すことで取り組みインパクトを高めたいということがございます。現在、地球温暖化対策地域推進計画がありますが、それに加えてゼロカーボン、気候変動適用計画としても位置付けられるように内容の拡充を図りたいと考えております。

ポイントの 2 つ目ですが、現在、下の表を見ていただくと分かる通り、現行計画では分野の下にさらに基本目標があり、その下に基本施策が紐づいているといった構成になっております。ですが、今回分かりやすく市民に伝えるというポイントからこの分野というのをなくして、例えば基本目標の分類をシンプルに統合することで、より分かりやすいものにしてはどうかということが 1 点見直しのポイントとして入れさせていただきました。

3 つ目のポイントです。ここにも関連しますが類似する基本施策がいくつかありますので、そこについても同じくシンプルにするという観点から、統合したり文言の変更をしたりという事と同時に達成指標をそれぞれ対応するものを追加することで、最終的に目指すところは何なのか、何をもちって達成したとするのかといったところが、一対一で把握できるような形で整備していきたいと考えております。

具体的な案として、下に組み換え案を示させていただきましたが、まだたたき台の段階で基本目標として、地球環境にやさしい街づくりを進め、ゼロカーボンシティを実現する、ゼロカーボン関連施策の内容を拡充した形で一番最初に打ち出すという事を考えております。赤字になっているところが、今回見直してはどうかと考えている施策や基本目標の文言になりますが、なるべくシンプルな文言でわかりやすい分け方でカテゴリを変更するという事を考えております。合わせて先ほどご説明したとおり指標もそれぞれ更新していきたいと考えております。こちらは現在、要検討として抱えておりますが、大きくはこのような基本目標の組み換えを今回の改定で行っていききたいと考えております。

(中村会長)

ただいまの説明を受けて、環境基本計画の改定にあたっての、皆様の思いについて、意見交換をしたいと思います。

委員の皆様それぞれの立場から、「市民に浸透するような計画にしたい」「現場ではこんな環境課題や取組があることを伝えたい」など、率直なご意見をいただきたいのですが、

もちろん、今説明のあった計画骨子案に対する具体的な質問や内容でも結構です。

何か、ご意見、ご質問がある方は、挙手をお願い致します。

(A 委員)

冒頭の市長の話に CCUS というのがあったが、一般市民には横文字はわかりにくいので、日本語で説明書きするなどして一般の市民でもわかるような配慮があってもいいのかなと思います。全体的に言えます。

(B 委員)

人と自然が共生する豊かな自然環境を次世代に引き継ぐ、という項目の自然環境の保全と緑の育成と保護に分けられていると思いますが、さらに上に別項目で「身近な緑化の推進」とあります。多分専門の方や市役所の方は項目を分けている理由がわかると思いますが、一般の方は何が違うのかがこの一文だけ見てもわかりづらいと感じました。

(A 委員)

「安全安心快適な生活環境を確保する」の中の水道ビジョンの進捗率とあります。前にも質問しましたが、水道の民営化との絡みでどのように展開されるか今の時点で構想があれば教えてもらいたい。

(鈴木次長)

以前、A 委員からご質問頂いて、水道ビジョンの中での上水道の民営化というお話がありました。当時もお答えさせていただきましたが、まだ比較検討段階で進んでいないと聞いています。

(A 委員)

わかりました。

(C 委員)

ゼロカーボンという言葉だけが先行して、ゼロにしなければならないというのではなく、実質プラスとマイナスでゼロという意識が伝わっていない気がする。

もっと苫小牧としての二酸化炭素の吸収源をいろいろ活用して、それを含めてプラス、マイナスでゼロなんだという意識が伝わっていないような気がします。もっと市民レベルで理解できるように企業や町内会などで市民に理解してもらえるような取り組みができればいいと思っている。

(D 委員)

市民の方々の中でゼロカーボンシティを目指すときに、何をすればいいのか、どんなふうになるのか中々イメージがつかめないことがあると思います。特に子育て世代は、言葉は聞いたことがあるけどイメージがわからないということがあるので、これを実現することで自分たちの生活がどう変わっていくのか、どのようなことに参加し、取り組めばいいのかをわかりやすくすると、より多くの市民が参加できると思いました。

(A 委員)

先ほどの説明で、CO₂の貯蔵、森林とおっしゃっていましたが、実は海も相当、二酸化炭素を貯蔵する機能があるということをあまり知られていない。そのあたりを市民にどう PR するか。

2 点目は、先ほどの説明の中でカーボンニュートラル、2050 年。2013 年比較で 47%削減は結構厳しい数字だとおっしゃってました。世界の環境元年は 1990 年というのはご存じですよ。世界はそれでやっています。欧米や中国も。

ドイツ・フランス・イギリスなどは 1990 年でやっています。日本だけが 2013 年。

専門家の方がいらっしゃるので、そのあたりどうなっているのか。

(櫻井課長)

環境保全課の櫻井です。

最初の質問について、CO₂の吸収源で森林と海ということでもいいですか。

釧路でも実証試験を行っていると思いますが、海藻に CO₂を吸わせて海藻を育てて消費する。森林だけでなくそのような方法もあるということは承知しています。苫小牧ではまだされていませんが、そのような実証を経て技術が確立してきたら可能性はあると思います。

2013 年が基準年ということは国が統一しています。どこを基準としても 2050 年のゼロを目指すということは変わらない。私たちは統一した考えの 2013 年を基準としてゼロを目指していく。国全体で統一されていますので、市としても基準年は 2013 年と考えていきたいと考えています。

(A 委員)

釧路で昆布。苫小牧はホッキ漁獲高日本一。

昔、石狩川の放水を市民が阻止して、今ホッキの漁獲高一位。そのあたりの歴史を知られていない。

苫小牧漁協とコラボして何かやってもいいのではないかな。

基準年は、国で決まったことに準じるだけでなく、意見や提言をしてもいいのではないかな。

(中村会長)

ありがとうございました。

(E 委員)

消費者協会は 50 数年しておりますが、目標として安全安心、地産地消を掲げてやってきました。

ゼロゴミや食品ロスを大事にして活動しています。食品ロス推進サポーターもしていきたいと思っています。このようなことをつなげていくことで SDGs、ゼロカーボンにも繋がると思います。

苫小牧の水産・農業・ウトナイ湖、環境を考えつつ進めていくことが大事だと思っています。

地球温暖化対策の必要性を市民に知らせていく。それぞれの組織でそれぞれの活動を広めていくことが大事だと思っています。高い意識を子供から大人まで知らせる必要があり、私たちは私たちの協会の活動を進めていきたいと考えています。

(A 委員)

資料の中でゼロカーボン関連の家庭部門のなかでハードウェアのメーカーさんからしたら物が売れていい。

ヨーロッパでは税金を払うと約 6 割戻ってくる。日本は 4 割くらい。

北海道庁の知り合いに苫小牧市は人に対しての還元率がとてつもなく低いと聞いた。

子供に関して、給食費をタダにするとか、有機農法の食材を給食に使用する。

円安で物価高になり食品自給率が低い日本では影響が大きい。

海外から安いものを買うのもいいが、地元や周辺の地域と連携してカーボンニュートラルを取りこんでいく。

苫小牧民報の 2 面を見ると白老・安平は結構いいことをやっている。苫小牧ももっと取り入れたらいいと思って見ている。

有機農法の高い野菜を買っても地域内に還元するので海外にお金が出ていかない。もっとお金を地域内で還元するような仕組みを市でやってほしい。

(F 委員)

他の委員の方もおっしゃっていましたが、市民がやるべきことをもう少し明確化してほしい。

変えてほしいことを提案するだけでは、生活で手いっぱいの方、子育て世代の方、親の介護に忙しい方は手が回らないのではないかと思います。ビニール袋も有料化になって、自分で持っていくようになりました。環境に意識が向いていないかもしれないけど、自分のポケットマネーに関係があると行動が伴ってくるのではないかと思いますので、そのような観点でもやってほしい。市民としてやってほしいことがリンクしていることが含まれていると、興味がなくても自分にメリットがあると思えるのではないかと思いますので是非考慮していただきたい思います。

(G 委員)

苫小牧が今何に困っているのか、騒音なのか、せつかく市でやるので苫小牧市の悪いところをみんなに知ってもらい、苫小牧市民としてこの 3 つだけやっていこうよとかわかりやすいものがあると、まずはスタートとしてはいいのかなと思いました。皆さんも言っていましたが専門用語がすごく多くて正直分からな

い。出来るだけわかりやすく、子供たちにも伝わりやすく、4コマ漫画などでもいいと思う。まず知ってもら、少ない数でもやってもら、そのようなこと方始めていくのがいいのかなと感じました。

(H 委員)

これから計画を策定していくにあたって、かなり 2030 年、壮大な目標に対してあたっていくということで、それぞれの項目の指標。どの年度でどれだけの達成を目指すという年次ごとの達成指標のようなものはおかれるような計画にされる予定なのかお聞きしたい。

(櫻井課長)

取り敢えずは 2030 年に向けての目標。2050 年はゼロと決まっていますが、そこを細かく切って年度ごとに設定するという事は恐らくしないと思います。

2030 年に向けての目標で、2030～2050 年 20 年ありますが、環境基本計画が 2030 年で見直しになり、2031～2040 年でまた設定していかなければならないと思う。10 年ごとの設定で中間見直しの時期にどう見直していくかというような形になる想定でいます。まだはっきり決まっていないのではっきり申し上げられませんがそう考えています。

(中村会長)

I 委員、何かコメントありますか？よろしいですか？

(I 委員)

ごみのアンケートについて、一人一日当たりの家庭ごみの排出量の目標とあります。ゼロごみ推進とコラボして、この用紙をいただきましたが、「2510(ニコとま)運動」など知らない方がいると思います。もっと詳しく、一般市民に分かるようにしていただきたいと思います。

(J 委員)

皆さんがおっしゃる通り、確かに分かりにくい言葉が多いと思います。せっかく基本計画を策定しても、個人がやることを書いていますが、目にしていない市民の方のほうが圧倒的に多いので、せっかく策定してもそもそも個人が目にする機会がないということもあるので、策定した後、周知する仕組みを考えていく必要があると思います。資料 3 の最後の表は非常にシンプルでわかりやすい。内容によって少し組み換えも必要になってくると思います。

(A 委員)

先ほどの I 委員の話に触発されて思ったのですが、苫小牧はごみの仕分けが多いです。札幌の家族から苫小牧はやたら仕分けが多いといわれる。私の知識では、苫小牧はごみの焼却場が 1500 度以上で燃えるのでダイオキシンが発生しづらい。1500 度以上で燃やせる焼却炉を持たない自治体はダイオキシンが発生するから、細かく仕分けするというのはわかるのですが、苫小牧は高性能の焼却炉を持っているので、市民に神経を使わせないで、もう少し大雑把でもいいと思います。

(K 委員)

皆さまのお話を聞いてすごく共感できる部分が多いと思いました。まず横文字が多い部分、難しい言葉については、私が外国人だから理解できないのかなと思っておりましたが、皆さんも同じように思っていたことに驚いております。外国人だけではなく、一般の市民も横文字の下に日本語の言いかえみたいなものがあった方がいいのかなと思いました。インスタとかでとまチョップのアカウントをフォローしているのですが、とまチョップがゼロカーボンについてのアンケートを呼び掛けているのですが、その時もゼロカーボンって何だろうと思いました。すぐ分かる説明があってもいいのかなと思いました。

もう一つ単純な質問ですが、苫小牧に引っ越してきたばかりなのですが、苫小牧のごみの分類で段ボールが無いのはなぜでしょうか？

(鈴木次長)

最後の質問で、段ボールの分別がないことについてですが、A 委員の質問の中でもごみの分別が細かすぎるのではないかというお話がありました。苫小牧では平成 19 年からゼロごみの町ということで、燃やすごみを少なく、リサイクルできるものはリサイクルしようということで、他の町よりも細かくごみの分別をしていると思います。段ボールにつきましても同様にリサイクルする。リサイクルする中で、市民のご協力が欠かせないと思っています。市民にごみの分別、リサイクルを周知徹底していただくために、本市では町内会やスポーツ少年団にごみの集団回収という制度で協力をお願いしてもらっています。段ボールについては市の家庭ごみ収集で収集しないで、集団回収に出していただくことになっています。

(L 委員)

私は環境審議委員を長年やっております。最初に出た会議では安心・安全な快適な生活環境、大気汚染、河川の汚染について話し合いがあったと思います。

それからごみの分別、それをやった中で自分たちの認識で、ごみを分別して出せばリサイクルができ、資源を大切に使えるということで、市民の考え方も変わってきたことがすごくよかったと感じています。

環境審議会からは、ごみやエコドライブなどの活動をやっている中で、去年あたりからゼロカーボンってどういうこと？と考え、自分なりに色々調べたりしました。このような会に出て聞いているとわかりますが、ただ新聞を読んだだけではわからない。子どもたちは尚わからないと感じています。もう少し工夫して市民の方の理解を深めることが大切ではないかと思う。A 委員が話していましたが、他の国では早くから取り組んでいたけど、日本は取り組みが遅いという話がありましたが、日本は違うことを先に取り組んで出足が少し遅かったかもしれませんが、みんなで協力しながらいろいろやっていくのは、あえて悪いことではないと思います。遅れてスタートしたけどみんなと平等にその点に向かっているということに関しては日本も苫小牧も出遅れているわけではないと思いますので、いいことだと思います。

(M 委員)

私も皆様と同じように、分かりやすく身近であるということが重要であると思いました。これから計画骨子のほうも項目の目標や具的な取り組みが固まってくると思います。ニュースとかで見聞きするのは、燃料を水素にかえるというような大きな取り組みや目標はよく聞きますが、市民にとっては身近でなかったり、ごみの分別などの小さな取り組みも取り上げて周知するようなことになれば自分のこととして問題意識を大きくして捉えていけるのではないかと思います。

(N 委員)

皆さんがおっしゃっている通り、分かりやすさ、身近さはすごく重要だと思いました。違う観点から意見すると、今回の計画において目標のレベルをどこに据えるのかは重要だと思っています。実現可能な目標を立てることができなければ身近さには繋がらない。如何に実現可能な目標を立ててそれをわかりやすく伝えて、その目標に向かって企業や市民がちゃんと活動できるということが大事。自分で活動したことが実際にどう成果に繋がったのかということのを早い段階で知ることができれば、次にしっかりと繋がるのではないかと思います。以前もこのような計画策定に携わらせていただきましたが、身近さだけでなく、明らかに無理だと思える計画を立てられがちだと思うので、そうならないようにしていただきたいと強く思います。

(O 委員)

現段階では計画骨子ということで、今後いろいろと改善されると思いますが、具体的に誰が何をするのかをわかるようにしていただきたい。いろいろ目標や基本施策があると思いますが、これは企業が行うことなのか、市民個人がやることなのか。企業が行うことであっても市民がどのように貢献できるのか。一市民として、自分が何をするのか、どう貢献できるのか見える形になると身近なものになるのではないかと感じました。素人考えですが全体を見回したときに公共交通という言葉があまり見られないような感じがしました。現代技術も進歩してマイカーだから環境負荷が大きいとは必ずしも言えないかもしれませんが、公共交通の観点が無いのかなというのが疑問ではあります。

(P 委員)

実際にやるのは市民ですから、市民がわかりやすく達成感、満足度があるものが一番いいと思います。この席にはふさわしくないかもしれませんが、がねがね、市長にこの計画をするのに町内会に担当者を一ひとり置いてくれという意見が出ている。我々も町内会にいてどんなことをやるのか、どんなことをやってほしいのか、どのような役割が出てくるのか、そのようなことが全く見えない。もっとわかりやすくなれば町内会に担当者を置きやすくなります。そのようなことをお願いしたいと思います。

(A 委員)

市民や民間レベルでの観点があったと思いますが、今、O 委員もおっしゃいましたがコロナ前、3、4年前にこのような会議に行ったときに、大企業なら ISO14000 をするところがあるが、あれはお金がかかる。中小企業は出来ないの、環境省でエコアクション21という低コストでやれるということをしている。それを苦小牧でやったらどうですかとお尋ねしたときに、結構前にやったけどイマイチでしたと当時の担当者が言っていました。

いまゼロカーボンの時代に於いて、地元の中小企業にエコアクション21を CO₂ の削減ということで市として働きかける。私の経験では、中小企業の社長は環境に取り組んでも売り上げになるのかという人が必ずいる。彼らを説得するには、売り上げが伸びるということではなく、製造コストが下がる。高性能のボイラを導入すると重油の消費量が半分になり、国の補助金制度があるということを知らない方もいる。環境に取り組んだら経費を下げることで結果的に製造コストが下がり、粗利が残りますと言えば興味を示してくれる。そのようなアプローチをしてもいいと思いました。

(F 委員)

この環境基本計画にかかわらず、目標達成をするということに関して市民一人一人がアクションを起こさないと達成できない。このようなことは時間がかかり、面倒くさいと思いがちなことが多い。目標達成しても達成感がないと思う。例えば、ダイエットしたい人はなんであんなに頑張って時間とお金を使うのかというと、ダイエットした後の想像ができたり、体重が減ったという結果が出て嬉しいと思えるから頑張れる。環境基本計画の目標も達成したときに市民が何かしらの報酬があって、それを喜ばしいと思えるリワードがあると個人個人が頑張ろうと思えるのではないかと思います。具体的には、お金かもしれないし、この市に住み続けるためのメリットになるようなものがあるといいのではないかと思います。

(D 委員)

そもそも市民の方々が、なぜこのゼロカーボン、二酸化炭素の削減をしなければならないのかという問題意識を持っている方があまりいらっしゃらない気がする。何かに取り組む、改善をするということは、問題があって、それを改善していい暮らしになっていくという流れがないと、今困っていないから取り組まなくてもいいでしょう？と思う方もいらっしゃるかもしれません。こういうことが問題で将来もっと問題が大きくなるので協力して取り組んでいきましょうという何か目安があると市民の方ももっと取り組みやすいのではないかと思います。

(中村会長)

だいたい皆さんの意見、大きく分けて2つくらい。要するに分かりやすい目標を立てて、企業と市民が役割についてしっかりわかりやすい情報発信、PR、キャンペーン等は、今までごみ分別とか、お話にも合った袋の有料化。

情報発信という力は大きいと思います。一方で計画の表でも産業や家庭、相当厳しい数字が出されて、それだけでは、数字が出て終わるような気もします。何人かの委員から出ましたように、権限を持った市が、しっかりとした行動を起こして、漁協との連携など権限を持ったところがしっかりと事業者や市民に対して、何らかのアクションを起こしていかないと、この難しい数字はなかなかクリアできないという印象を受けました。私からは雑駁なまとめですが以上です。何か補足や意見があればお願いします。

資料3の計画骨子については以上です。事務局から何かありますか。

(石黒部長)

環境衛生部長の石黒でございます。今日は本当にありがとうございます。

皆さんからのご意見、様々お聞きして、まさにそういうことだなと一つ一つがすごく実感がこもって聞いていました。私的に言いますと、この春に衛生部長を拝命いたしました。それまで環境行政に携わっていなかった中で、ゼロカーボンは一番大きな課題だと言われてきたけれど、最初はゼロカーボンというものが自分の中に染み込むまでに相当時間がかかった。まだ不十分なこと多いと思います。その過程の中で皆さんと同じように感じてきましたので、すごくよく理解できます。

行政はどうしても、そもそも行政用語がよくわからない。法律で使われる言葉を引用して計画などを作るから、行政の計画はどうしてもそうになってしまう。そこを何とかするのが行政だと思うので、工夫して何とか出来るだけわかりやすくやっていきたいと思えます。

計画は計画として計画の中身をかみ砕いたり、部分的に分かりやすく発信したり、お子さんや高齢者

などにも合わせた発信の仕方を考えて、柔軟にいろいろな方法を用いてやっていく必要があると思っています。様々ないただいたご意見を生かして計画を作ってまいりたいと思いますので今後ともどうぞよろしくお願い致します。

(中村会長)

続いて、計画改定に関し、本日の議題であります、環境審議会部会の設置について確認をいたします。

本日、苫小牧市第4次環境基本計画及び苫小牧市地球温暖化対策地域推進計画の改定に関する諮問を受けました。

今後、詳細の議論に関しては、先程説明されました、部会に委ねることとしてよろしいですか。

～委員同意～

(中村会長)

続きまして部会委員ですが、苫小牧市環境審議会規則第5条第2項により、『部会は、会長の指名する委員をもって構成する』と規定されておりますので私から指名させていただきます。

構成は審議会構成区分である学識経験者、事業者、民間団体、市民公募の各区分より選出し、学識経験者より北海道大学苫小牧研究林 N 委員、苫小牧工業高等専門学校 J 委員、事業者より北海道電力ネットワーク株式会社苫小牧支社 H 委員、苫小牧漁業協同組合 Q 委員、民間団体より苫小牧市町内会連合会 P 委員、市民公募より A 委員にお願いしたいと考えています。

本日、欠席の苫小牧漁業協同組合 Q 委員からは事前に承諾を得ております。その他 5 名の皆様、よろしいでしょうか。

～委員同意～

(中村会長)

それでは、部会長については、部会に属する委員の互選と規定されておりますので、この会議終了後、選考をお願いいたします。

最後に、次回審議会の予定について事務局から連絡します。

(笠山主事)

本日の協議内容、および今後予定している部会等での議論を踏まえて見直し作業を進め、次回 11 月に予定しております第 3 回審議会において、環境基本計画の改定案をご提示します。

内容としては、今回新たに拡充されるゼロカーボン推進計画や気候変動適応計画部分の説明を中心に、環境基本計画の改定内容について協議したいと考えています。

次に、部会長の選出についてでございますが、今先ほど中村会長よりお話がありましてとおり、本会議終了後に選考していただきたいと思いますので、部会委員へ先行された皆様は、この場でお待ちいただきたいと思います。

最後に、苫小牧市女性団体連絡協議会様より依頼を受け、皆様のお手元にゴミのアンケートを事前

に配布させていただいております。お帰りの際に、受付への御提出をお願いいたします。

私からは以上です。

(中村会長)

最後に全体を通して何か御質問ございますか。よろしいでしょうか。

部会委員の皆様は、それぞれの立場で御多忙であると思いますが、今後示される素案の審議についてよろしくをお願いいたします。

これをもちまして第2回環境審議会を終了いたします。

皆様、活発なご意見をいただきまして、ありがとうございました。